

令和4年度 第2回図書館協議会

- 1 日時 令和5年3月8日(水) 10:00～
- 2 場所 中央図書館2階研修室／オンライン併用
- 3 出席者(委員) 今村委員、福沢委員、玉置委員、矢澤委員、遠山委員、  
和田委員、林委員、会津委員、酒井委員  
(事務局) 瀧本中央図書館長、矢澤中央図書館長補佐兼情報サービス係長、  
関口地域読書推進係長兼県図書館長、宮下上郷図書館長、小森管理係長、  
(司会) 小森管理係長
- 4 中央図書館長挨拶
- 5 今村会長挨拶
- 6 会議事項  
(1) 令和4年度事業報告および令和5年度の取組について  
(2) その他
- 7 連絡・報告事項

\*\*\*\*\*

6 会議内容 (司会) 今村会長

(1) 令和4年度事業報告および令和5年度の取組について

- 会長 最初に会議事項1、令和4年度の事業報告および令和5年度の取り組みについて、事務局から説明をお願いします。
- 事務局 資料No.1「第4次飯田市立図書館サービス計画に基づいた令和4年度の事業報告及び令和5年度の取組」により説明。

I. 図書・資料・情報提供を充実させます

令和4年度の取組、成果および課題

- ・中央図書館サテライト館として飯田駅前図書館が開館した。中央図書館の図書の移管に伴い、中央図書館の図書の配置の見直しも行った。
- ・郷土に関するレファレンスへの対応の効率化を目指して、国立国会図書館レファレンス協同データベースに正式参加申込みを行った。今後、飯田市の郷土に関するレファレンス事例を全国へ発信していくことにもつながりたい。
- ・ビジネス支援の取り組みとして地元企業の方による講演会を開催。幅広い層の参加があり、実務に即した取り組みへの反響が大きかった。
- ・8月に長野県内の市町村と県の協働事業として、「デジとしょ信州」が始まった。いつでも利用できる図書館として利用されている。

### 令和5年度の主な取組

- ・国立国会図書館レファレンス協同データベースへ事例登録を行い、郷土に関するレファレンスの効果的な活用を図る。
- ・南信州図書館ネットワークで使用している図書館システムが、令和5年6月で契約終了となる。ネットワーク参加自治体と連絡、調整を行い図書館システムの更新を行う。
- ・使いやすい図書館を目指して取り組んでいく。

## II. 子どもの読書活動を推進します

### 令和4年度の取組、成果および課題

- ・7ヶ月児への「はじめまして絵本」プレゼントは、コロナ対策により司書からの話は行わず、絵本プレゼントのみを行った。
- ・年中児への「おともだち絵本」プレゼントは令和4年度で2年目。2月には全ての対象者へ絵本プレゼントが完了した。
- ・「おともだち絵本」事業と合わせて保育所等へ団体貸出を行い、家庭への絵本の持ち帰りの推進をした。
- ・小学生への読書推進として学校司書と共同で作成している本のリスト「よむリス」の作成3年目となった令和4年度は、5年生版を作成して学校を通じて配布した。現在、6年生向けのリスト作成に向けて本を選定中で、来年度5月に配布予定である。「読書ビンゴ」などリストを活用した読書推進の取り組みが広がっている。
- ・はじめまして絵本事業、おともだち絵本事業についてのアンケート結果報告（別紙資料）。
- ・5月に利用対象のメインを高校生をとした飯田駅前図書館が開館（利用の状況は別紙資料参照）。
  - ・40代の利用が最も多い。
  - ・蔵書の配置に工夫したことで、本との新たな出会いがあるとの声をいただいている。
  - ・フリースペースには勉強に来る中高生が多く、休憩時に本を見るなどの利用が増えてきている。
  - ・高校生向けの企画を計画したが参加する高校生は少なく、一方で期間内はいつでも参加できる企画への参加者は多い傾向がある。
  - ・複合施設という場所を活かして、他の部署が実施している企画と連携して関連図書を展示。
  - ・高校司書会と情報交換を行った。

### 令和5年度の主な取組

- ・はじめまして絵本事業、おともだち絵本事業の継続。
- ・よむリス6年生リストの配布、活用。
- ・学校図書館との連携・協力による小・中学生の読書活動の推進。令和5年度に予定されている学校図書館へのコンピューターシステム導入の支援。
- ・読みきかせボランティア等、子どもの読書活動に関わる人達への支援。
- ・【駅前図書館】他の部署との連携を深め、図書館の利用促進を図る。高校図書館司書会と連携し、高校生への効果的な働きかけの推進。

### Ⅲ. 身近に使える図書館の充実を図ります

#### 令和4年度の取組、成果および課題

- ・地域の身近な図書館である分館では、地区の保育園や学校、公民館と連携した事業の開催、地区での事業に関連する本の購入などを実施。また、小・中学校の図書館司書との連携に力を入れ、学校図書館や子ども達の読書について情報交換を行った。集会行事の開催はコロナ禍前の状態に戻りつつあるが、子どもの利用は減少傾向にある。

#### 令和5年度の主な取組

- ・引き続き関係機関と連携した事業の開催。
- ・学校司書と連携した子どもの読書について考える体制の構築。

### Ⅳ. 学びあいにより人と人がつながり、読書や学びが広がる場づくりに取り組みます

#### 令和4年度の取組、成果および課題

- ・読書会交流会を11月に開催した。読書会に興味がある参加者を読書会へつなぐことができた。
- ・令和3年度に引き続き「鼎ナゾとき探偵団」を開催。参加の中学生と地域の大人との交流の機会となっている。調査のまとめを鼎地区の文化祭や鼎図書館、鼎中学校で展示し、多くの方に見てもらった。
- ・子どもの本研究会「児童文学者 清水眞砂子氏講演会」は講師のご都合で中止。
- ・第25回伊那谷地名講座を3月に開催予定。

#### 令和5年度の主な取組

- ・市民の方が学び続けることにつながることを目指して、気軽に参加し情報交換できる場の提供や、講座などの企画を実施。

### Ⅴ. 地域の歴史と文化の記録を蓄積し、提供します

#### 令和4年度の取組、成果および課題

- ・郷土資料の紹介として、美術博物館や歴史研究所と関連した展示や、市民大学講座などで図書リストの配布や図書の展示を実施。また、伊那谷の自然と文化の講座にて貴重資料の紹介や図書館利用案内を行った。
- ・飯田城跡を巡るまち歩きイベントを行い、小学生親子が参加。地域に興味・関心を持ってもらう機会となった。
- ・郷土の新聞のデジタル閲覧システムの更新を実施。

#### 令和5年度の主な取組

- ・郷土資料をより身近に感じてもらうための資料の紹介・活用を推進。
- ・飯田市立図書館ホームページに掲載している郷土関連の図書リストの充実。

### Ⅵ. 安全で安心して使える施設を整えます

#### 令和4年度の取組、成果および課題

- ・中央図書館：空調設備更新工事 外壁改修工事 エレベーター更新工事 中2階照明 LED 化工事
- ・上郷図書館：空調修理
- ・伊賀良分館：太陽光発電設備修理 等

- ・安心して利用していただけるよう、コロナ対策を県や市の方針に従って行った。

#### 令和5年度の主な取組

- ・中央図書館：空調設備一部更新、書架表示照明 LED 化工事
- ・上郷図書館：トイレ改修、Wi-Fi 設置

#### [質疑]

- 会 長 今の説明を受けて、ご質問ご意見等、お寄せいただきたいと思います。よろしく願いいたします。
- 委員A 駅前図書館ができて、高校生の利用者は昨年度より増えているとのことで、「もっと」という思いはあるが、高校生の利用が増えたことはいいことだと思う。先日高校生と話す機会があったが、高校生は部活やアルバイトで忙しいという話で、イベントに参加するのはなかなか難しい。チラシなどの呼びかけで参加するというよりは、ロコミや友達関係で参加する方が多いと聞いた。高校生のイベントへの参加募集に大変苦勞されているという報告があったが、まち歩きのイベントなど少人数でも集まっているという事は素晴らしいことではないかと思う。参加人数が多いことよりも、少人数でも参加してくれる人を大事にして、参加する機会をたくさん作っていくことで参加者もだんだん増えていくと思うので、焦らずに続けていってほしい。
- 委員B 駅前図書館は通りすがりにちょっと立ち寄ることができる。中央館などへは「よし、図書館へ行くぞ」って形で来館する方が多いと思うが、駅前図書館の場合は、図書館が目的ではなく寄ってくれる。本を借りるわけではないが、手に取って見る、読むという人達の数が多いのではないかと感じた。そこからだんだんと図書館の利用へつながっていくと良い。早急に利用が増えればうれしいと思うが、長い目で見て、増加していくという形が見られると良いと思う。
- 委員C 高校生は本を借りるというよりも勉強に使う場合が多いようだが、ここに来ているうちに図書館を身近に感じるようになっていくのではないかと思う。図書館を利用する人を育てていく場所になっていけるといいと思う。
- 委員D はじめまして絵本や、おともだち絵本は、とてもよい事業だと思う。親が本好きで家に本が多くあるような子どもにとって本を読むことは日常だが、そうではない子どもにとって、本につながる良い機会になっていると思う。本当に意義のあることだと思う。
- 事務局 家庭によって図書館の利用や本に接することの差が大きく、利用する家庭は日常的に本に親しんでいるが、家庭によっては全く本を読んでいない状況がある。そういった家庭への働きかけを目的としてこの事業に取り組んだ。
- 委員D 最近、中央図書館の図書の配置が変わったと思っていた。駅前図書館へ本を移動したからかなと思っていたが、いままで気が付かなかった本が目につくようになり、たまに変更されるとうれしい。

- 委員C 地域との関連で、公民館行事や美術博物館や歴史研究所の講演会などに参加すると知らなかった事があることに気づく。それらの内容に関連した展示をするというのは大事なことだと思う。
- 委員A 国立国会図書館レファレンス協同データベースはもう使えますか。
- 事務局 国立国会図書館レファレンス協同データベースは、インターネットで誰でも使えるサービスで、全国からいろいろな事例が集まっているので使ってみてほしい。飯田市立図書館の事例は来年度以降にあげていく予定。
- 委員B はじめまして絵本やおともだち絵本を配布する時、本に印などをつけているか。飯田市のはじめまして絵本で配布された本だとわかるようになっているか。
- 事務局 特に印はつけていない。
- 委員B リサイクルショップで配布されたであろう本が出ているのを目にしたと聞いたことがある本当に配布された本かどうかはわからないけれども、もし本当なら悲しい。
- 委員E 家では、はじめまして絵本でいただいた本をよく読んでいる。本がボロボロになるまで読んだ。子どもにとってとても良い事業だと思う。自分ではその年代にあった本が選べないので、「よむリス」などの本のリストは本を選ぶのに参考になる。もし、リサイクルショップに配布された本が出されていたのであれば悲しい。
- 委員F 転売される可能性はあると思う。リサイクルショップだけでなく、インターネットも可能性はあるのではないか。絵本プレゼントに限らず、他の事でも転売されてしまう事例はある。プレゼントを渡す時に「転売している事例があるので気を付けてください。」と言ったり、番号をつけて誰に渡したかをこちらで把握するような対策をとったとしても、防ぎきれない問題。税金でプレゼントしているものから個人の利益を得てしまうというのは良くないことだと感じるけれど、その取り締まりを厳しくするのもどうかと思うし、手間もかかる。
- 「よむリス」はとても面白く読ませてもらっている。年齢によってどんな本が適しているかわからないので、情報を得られてよいと思う。
- また、なんとなく読書はいいものだと思えてしまっているが、子どもにとって読書というのは何の役に立つのか、情緒を高める、集中力がつく、文章を書けるようになるといったことを保護者向けにも伝えていけると、読書とは何かを考えることができる。
- これからはテキストの時代だと、(図書館大会の基調講演で)新井先生もおっしゃっていたが、それは私もすごく感じている。文章は書き手によって全く違い、文章を柔軟に読みこなして情報を得て自分の武器にできるという能力を養うのはなかなか難しい。そういう部分を子どもたちに伝えていけるようにしてもらえるとうれしい。
- 事務局 プレゼントの本もただ渡すだけでなく、そこから家庭でどう広げていけるかが大事。どう展開していくか、有効な働きかけは何かを考えていきたい。
- 委員G 転売は難しい問題で、どうしてもリスクはある。それでも経済的に困窮している家庭に本を届けられることは大事なこと。少しでも基礎を整備することは、公共事業として大事な

ことだと思う。

駅前図書館は中高生の利用が多いようだが、地元の子が多いのか。

- 事務局 ご家庭からの送迎などもあり、地元ばかりでなく他の地域からも来ている傾向がある。
- 委員G 中高生の利用が多いようで、当初狙っていた若者向けの図書館というコンセプトがかなり鮮明に出ているという感じがするが、高齢者の利用も多いと思う。並べられている図書は若者向けが多いという関係で貸出数は伸びていないが、おそらく高齢者の方もかなり来ているのではないかと思われる。今後の長期にわたっての展望をどうしていくかということも一つの課題ではないか。今は若者向けだが、5年後、10年後もそれをそのまま継続するかどうか。
- 委員H 学校では ICT 化が進み、文章を書かせるとインターネットから文章をコピーして作ってくる子どももいる。読解力が問題になっているが、文章をどれだけ理解しているか。聞かれている質問に正しく答えられない、何を答えていいかわからないなど、文章に慣れていない子どももいる。  
おすすめ本には「読ませたい本」と「子どもが読みたい本」がある。飯田市として読ませたい本を薦めることも大事。  
一人一人のニーズに応え、寄りそう姿勢は、多様性にもつながる大切なことだと思った。
- 委員I (図書館大会で) 新井紀子さんの講演を聞いて、読み解く力が大事だと痛感した。読む本を意識して、自分の本の読み方が変わった。  
駅前図書館は高校生の利用がいい雰囲気だと思っている。今、高校では探究学習が進んでいるため、その学びへの情報発信ができれば良い。学びの場としても、人が集まる場所としても期待している。
- 委員A 私が利用している分館では、図書館の案内が定期的に地区の広報に載っている。図書館を身近に感じる取り組みだと思う。  
また、長期休みに小学生向けに行っている寺子屋の時に、図書館を開放してくれている。宿題が終わると図書館に行って本を読んでいる姿があり、それをきっかけに貸出にもつながっていてありがたい。
- 委員B 学校には図書館司書がいるが、保育所には司書に該当する職員がいない。本や読みきかせ、おともだち絵本を選ぶ時に相談にのれる人がいない。図書館から保育士に、読みきかせや絵本についての働きかけができるとうい。

## (2)その他

### 第72回長野県図書館大会実施報告

- 事務局 新井紀子さんの読解力についての講演は大変好評だった。文章を理解できないと、本をおもしろいと思うことにつながらない。図書館でも課題になっている。読解力についてご意見

いただきたい。

- 委員B 一人一台タブレットの時代で、子どもたちも小さいうちからデジタル機器を使っていることが、影響があるのではないかと。  
本を読むということはどういうことなのか考える場となった。
- 委員H 小学校では、例えば戦争について取り上げた授業のとき、動画を見せたりもするが、読みが浅く、自分に照らし合わせて考えることが難しいと感じている。できるだけ多くの文章に触れて、要点を取り出すということをしていく。保護者、学校、社会全体で取り組んでいくべきことだと思う。
- 委員F 文章にもいろいろある。どういう性格の文章で何を伝えたいのか分かることが、読解力には必要。まず、テキストに書かれている事実を把握する。たとえば、新聞記事は重要な事から書き、事実を伝える。物語はもう一段階進む必要がある。  
読むと書く（伝える）はセット。読んで書いて人に伝わったという経験が大事ではないか。
- 委員C 講演では黒板に板書したことが書けないという話がショックだった。読んで書くことは大事だと思った。文章に対する解釈はそれぞれ。自分で考えることが大切だと思う。
- 会 長 その他、委員の皆さんの方から何かありましたらお願いします。よろしいでしょうか。それでは、これで協議を閉じます。